



安全衛生の語り部

～次世代に伝えたいこと～

3



(株)レールセキュリティ
代表取締役社長

竹内 千里

TAKEUCHI Chisato

■プロフィール

列車見張専門会社(株)レールセキュリティ代表取締役社長。「日本一安全な列車見張会社」を目指して、社内でゼロ災運動を展開。全国産業安全衛生大会で5回発表。2019年には中災防会長賞を受賞。公認KYTインストラクターとして、研修指導も行う。

わが社での安全衛生活動

■ゼロ災運動との出会い

私がレールセキュリティを起業したのは2006年。子育てを終えた40代後半、警備会社でパートをはじめ、線路に立つ警備員に興味をもったのがきっかけで、列車見張り部門を立ち上げた。その後いろいろな経緯があり、社長として列車見張専門で会社を設立するに至った。

創業当初、社員の遅刻や交通事故などトラブルが多発。仕事経験も未熟な社長ということもあり、社員のミスに対して、頭ごなしに怒ることしかできなかった。怒って人は減ることはあってもミスが減ることはなく、悪いスパイラルに陥っていることが自分でもよく分かっていた。「何とかしなくては…」と焦りだけが募る中、出会ったのがゼロ災運動だった。

「一人ひとりカケガエノナイひと」という理念と「トップの率先垂範」「全員参加」という精神に非常に感銘を受け、「ゼロ災運動で、会社がよくなっていくのではないか」と一筋の光を見た心境であった。やるならトコトンと決意し、企業理念や行動指針にゼロ災運動の基本を

取り込み、「日本一安全な列車見張専門会社」を目指し活動を開始した。

■ゼロ災運動と社員教育

ゼロ災運動浸透のために教育、研修に注力した。年3回・丸1日かけて行う「RS（レールセキュリティ）研修」、月1回・半日の「RS会議」、毎日・朝礼、終礼時に行う「RSミーティング」を教育の3本柱とした。

「RS研修」では、企業理念や行動指針の唱和から始まり、列車見張り訓練、KYT基礎4ラウンド法、ワンポイントKYTなどを実施。課題についてチーム討議・発表も行っている。この討議は「気づき」を目的としたもので内容もさまざまである。最近では「^{ほんじてっ}凡事徹底」や「チームワーク」や「コミュニケーション」などについて話し合った。全員が自分の意見を本音で出し合うことでチームワークづくりにも成果を上げている。

「RS会議」では、唱和、指差し呼称、「オアシス（おはよう、ありがとう、失礼します、すみません）」の挨拶練習などを徹底して行っている。また各自が月

間目標を設定しているので、全社員がその振り返りと翌月目標を設定し発表している。

「RS ミーティング」は、毎日現場で行う活動である。元請点呼前に当社社員だけで朝礼を行い、互いの体調確認や作業内容の把握などを行っている。終礼は、「ヒヤリ・ハット」「グッドジョブ」「ありがとう」の報告などで、各現場のリーダーはその内容を毎日会社にメールやファクスで報告している。この研修、会議、ミーティングは13年間欠かさずに続けている。この積み重ねが当社の「安全の力」となっていると思っている。

□ ゼロ災運動と会社の成長

ゼロ災運動を展開する上で大切にできたことは「正しい手法」の徹底した実践である。正しい手法には、確かな理由が存在する。手法の「型」をただまねるだけでは社員の安全は確保できない。正しい手法の意味を知り、納得したうえで、現場で実践することを指導している。

また、正しい手法は理解しているからできるものではない。毎日実践しているからこそ、いつでもどこでも正しく実施できるものである。現場で手抜きをしていると、すぐに行動に表れてくる。それを見抜き、正しい手法に導くのがリーダーの役割と思っている。研修や会議の演練では正しい手法を実践できているかを相互チェックしている。指先、声、視線、など、細かい箇所まで厳しく確認しているので、皆が真剣勝負である。

13年間、なぜそれができたのか…。それは「けが人を出してはいけない」というトップの覚悟と強い思いでもある。そして、社員たちもそれを十分に理解してくれている。なので、社員も「研修」

「会議」「ミーティング」を大切にしてくれている。

□ ワンポイントKYT 甲子園優勝と会長賞受賞

2019年に中災防近畿安全衛生サービスセンターでワンポイントKYT 甲子園が開催された。この初めての試みで、私たちは優勝することができた。大企業からの参加も多かった中、初代優勝を飾れたことは、社員にとって大きな励みと自信につながった。

そして、秋には中災防会長賞という大変ありがたい賞をいただくことができた。受賞連絡に社員は涙を流して喜んでくれた。私たち人間には完全はない。一人ひとりがモチベーションを保つのは難しいかもしれないが、チームとならできる…。そんな仲間が集う会社になってきた。そして日本一の安全を目指す会社になるため、お互いの成長を認め喜びあえる会社にも育ってきた。それは、ミーティングの「グッドジョブ」「ありがとう」報告にも表れている。皆がお互いのいいところを認め、誤ったときは正していく。ヒヤリ・ハットがあれば、皆ですぐに共有し、事故を未然に防ぐ。

安全は社員全員でつくりだすものだということを皆が理解し、現場で積極的に実践してくれている。わが社で「ゼロ災」は社員とリーダーの絆をつくる合言葉にもなっていると思う。

そして、この組織を代表する社長として、率先垂範し、社員に恥じない思想をもち、行動を起こしていかなばと思う。謙虚な姿勢と感謝の心をもって、より一層安全な組織をつくっていけるよう精進していきたい。